

## 令和5年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

松山市教育委員会  
松山市立小野中学校

### 1 取組の目的

- (1) 防災について正しい知識や実践力を身に付ける学習を推進し、防災活動において自ら考え判断し、発達段階に応じて主体的に行動する生徒を育てる。
- (2) 学校と地域との連携及び災害に対する専門家等からの指導・助言により、学校防災・地域防災の実践的な知識を習得し、いざというときに速やかな連携で対応できる組織と、自他の命を守るために主体的に行動する生徒を育てる。
- (3) 児童生徒相互、家庭、地域及び行政や関係機関の人々との連携を図った防災教育研修を推進することにより、地域の核となり、地域の一員として、安全・安心な地域社会に貢献できる力を身に付ける。

### 2 取組の内容

#### 【拠点校（小野中学校）の取組】

#### (1) クロスロード

阪神・淡路大震災で、災害対応にあたった神戸市職員へのインタビューをもとに作成された、カードゲーム形式の防災教材を扱った授業を実施した。いろいろな人の立場になり、どちらを選んでも何らかの犠牲を払わなければならないような問いに対して、自分なりの理由を考え、苦心の末に「Yes」か「No」か選び、その理由を発表した。災害を自分の身に引き寄せて考えると同時に、他者のさまざまな考えを知ることができた。



#### (2) マイ・タイムライン作成

松山市役所総合政策部防災・危機管理課との連携・協力のもと、「マイ・タイムライン」作成の学習を実施した。「マイ・タイムライン」とは、災害に備えて自分や家族が

とるべき行動をあらかじめ定めた防災行動計画のことである。

また、その授業を受けた生徒が避難意識を高めるメッセージを家族に送る「命のはがきプロジェクト」を実施することで、生徒だけではなく、その家族に対する防災意識の向上に努めることができた。なお、この取組については、拠点校のみではなく松山市立全中学校で実施している。



### (3) 先進地視察

高知県幡多郡黒潮町を訪問し、佐賀地区津波避難タワーの見学及び黒潮町立佐賀交流センターみらいにおいて現地の取組説明を聴講した。地域と中学校が連携した取組（中学生と行うお誘い型避難訓練等）や地域が中心となって行う様々な訓練について見識を深めることができた。



### (4) 誰一人取り残さない持続可能なふるさと小野の実現に向けて

#### ア 話し合い活動

小野地区には、多くのため池があり小野川も流れている。そんな小野地区が実際に地震や洪水の被害にあったときに、自分たちにはどんな知識が不足しているのか、何ができるかを考えた。四つのテーマ「防災組織」「ため池」「避難所」「避難方法」のうち、班で指定されたテーマについて、課題や知りたいことを深く考えた。特に、インターネットの情報だけでは、小野地区の詳しい情報が分からないことに気付い

た。

## イ 専門家に学ぶ

小野地区自主防災組織連合会、松山市役所総合政策部防災・危機管理課、松山市農林土木課の方から、小野地区の災害の危険箇所や起こりうる災害の危険性、小野地区での災害時に活用できる施設について、テーマごとに講演をしていただいた。質疑応答の時間には、生徒から「小野地区のため池の数」や「地震が起きた際の小野地区の防災組織の動き」など、小野地区の防災について知りたいことを聞くことができた。



## ウ 発表資料づくり

小野地区の防災について学んだことをもとに、発表資料の作成を行った。班ごとに「地域住民」、「中学生」、「小学生」と発表する対象を分け、それぞれの対象者に向けて実際に知ってもらいたいことを必ず入れるようにした。特に、「地域住民」に対しては高齢者や障がい者など、災害弱者を中心に考えて発表することや、「中学生」に対しては同じ中学生として何ができるのかを考えてもらうきっかけ作りになる発表にすること、「小学生」に対しては、災害時に大切なことを分かりやすく伝えられるような発表になるように意識して資料を作成した。



## エ 研究発表

第34回松山市教育研究大会において、市内の教職員に向けて研究発表を行った。2年生総合的な学習の時間「誰一人取り残さない、持続可能なふるさと小野の実現に向けて」において、地域住民と互いに協力し合うことが「誰一人取り残さない」という願いの実現につながることを理解することと、仲間と考えを共有し、意見を交換し合うことで、実際に災害が起こった場面において自分で考え行動する力を身に付けることをねらいとした授業を公開した。

## 【市教委の取組】

### (1) WEB版マイ・タイムライン指導者研修会

松山市では、松山市役所総合政策部防災・危機管理課の協力のもと、松山市立全中学校において、主に1年生を対象とした「マイ・タイムライン」作成の授業を行っている。今年度は、新たにWEB版マイ・タイムラインを使用した授業のために、松山市役所総合政策部防災・危機管理課の職員、システム開発業者職員による研修を実施した。実際に授業を担当する教員を対象に行い、その活用方法やWEB版ならではの機能を学ぶことにより、各校の実践がより充実したものとなった。



### (2) 防災士研修（学校教員防災エデュケーター育成講座）

各校の防災教育を中心となって推進する防災エデュケーターを対象とした研修を7月と8月の2回、実施した。第1回では、岡山県教育庁教育政策課の方を講師に招き、平成30年7月豪雨災害を体験された際の避難所運営、学校再開に向けての取組について、講義をしていただいた。また、小野中学校でも実施したクロスロードを実際に体験し、エデュケーター同士で意見交換をすることで、危機管理意識の向上を図った。

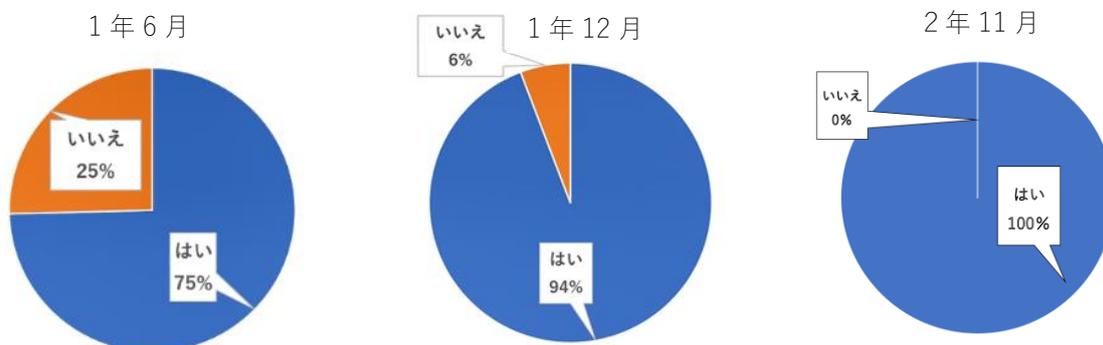
第2回は、愛媛大学名誉教授を講師に招き、「防災教育の目的と意義」について講義をしていただいた。また、今年度の夏に東日本大震災被災地視察に行った教員が視察報告を行った。震災時の状況や学校の対応、震災後の学校再開までの過程など、被災地視察で得た知識を他の教員にも広げることができた。その後、グループ協議を行い、各校の実践状況や情報交換を行うことでエデュケーター同士のつながりを深めた。



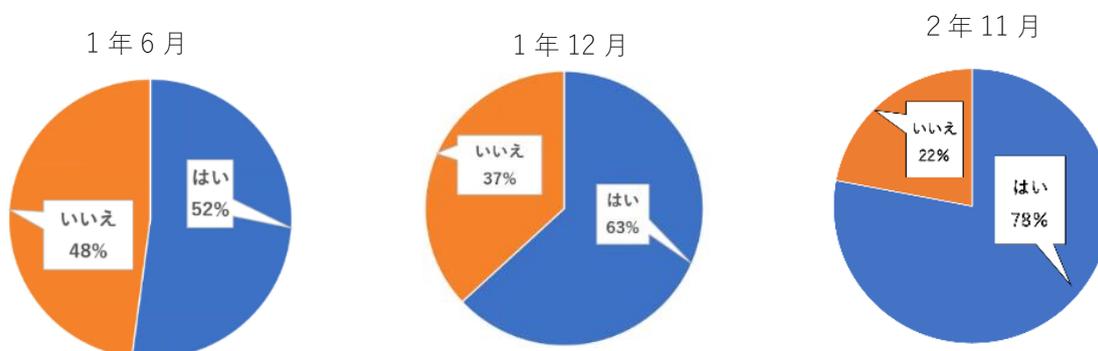
### 3 取組の成果

#### 【生徒アンケートの結果から】

- ・ 地域にどんな危険なところがあるか知っていますか。



- ・ 家族で防災について話し合っていますか。



- 拠点校では、2年生を対象として、令和5年11月に1年生の時と同じアンケートを行った。「地域にどんな危険なところがあるか知っていますか」の質問については100%となり、「自分の避難場所を知っていますか」についても100%に近い値となった。
- 続いて「家族で防災について話し合っていますか」の質問では、「はい」と答えた生徒の割合が78%まで増加した。継続して防災学習を行うことで、生徒の防災意識が高まったと考える。

#### 【拠点校】

- 小野中学校での実践では、多くの生徒が課題に真剣に取り組んだ。マイ・タイムライン作成の授業やふるさと小野の授業を通して、防災についての正しい知識や主体的に行動することの大切さを学んだ。
- 地区自主防災組織といった地域の防災に詳しい方と接する機会が増え、地域の防災に関心を持つ生徒が増えた。
- 避難経路について家族と話し合ったり、災害時に自分にできることを考えたりするなど、生徒が主体的に防災学習に取り組もうとする態度を育成することができた。

## 【市教委】

- 松山市立全中学校において「マイ・タイムライン作成」の授業を実施し、その授業を受けた生徒が避難意識を高めるメッセージを家族に送る「命のはがきプロジェクト」を実施することで、生徒だけではなく、その家族に対する防災意識の向上に努めることができた。
- 防災士研修（学校教員防災エデュケーター育成講座）を実施した際には、平成30年西日本豪雨災害を実際に経験した元校長の話の聞いたり、クロスロードにおいて活発な意見交換をしたりすることで、教職員の危機管理意識を高めることができた。
- 授業や研修の実施にあたっては、愛媛大学や松山市役所総合政策部防災・危機管理課との協力のもとに実施するなど、松山市防災教育推進協議会の関係機関と連携しながら実践を進めることができた。

## 4 今後の課題

- 「マイ・タイムライン」作成授業の実践に向けた研修会を実施し、松山市立全中学校で授業を実施することができたが、今後も、担当する教員が意識を高く持ち、自信を持って実践できるように努めなければならない。愛媛大学や松山市役所総合政策部防災・危機管理課との連携のもと、災害時に主体的に行動できる生徒の育成に向け、引き続き取り組んでいきたい。
- 小野中学校においては、防災に対する関心は高まっているものの、実際に地域の防災活動に参加している生徒は少ないのが現状であるため、積極的に保護者の方や地域の方との連携を取り、地域全体の防災意識の底上げを図っていきたい。